

## 通 知

### Ⅷ 兼務教育職員に対する通勤手当の支給について

(昭和50年4月2日学第606号)

このことについて、人事委員会規則7-38(通勤手当)及びこれに基づく「通勤手当の支給について」(昭和33年宮人委第387号)に定めるもののほか、別添「兼務教育職員の通勤手当支給要領」により支給することとしたので、兼務教育職員の所属する本務校にあっては、支給要件を確実に把握のうえその取扱いに遺漏のないよう願います。

#### 兼務教育職員の通勤手当支給要領

##### 1. 趣 旨

兼務教育職員に対する通勤手当の支給方法等については、人事委員会規則7-38(通勤手当)及びこれに基づく「通勤手当の支給について」(昭和33年宮人委第387号)に定めるもののほか、この要領に定めるところによる。

##### 2. 対象職員

兼務教育職員のうち、その兼務することにより通勤のため負担することとなる運賃等の額に変更が生じた者とする。

##### 3. 通勤手当算出の基準

兼務教育職員に対する通勤手当は、その兼務がないものとした場合に自宅から本務校までの通勤のため負担することとなる運賃等の額又は自転車等を使用する距離(通勤手当支給の要件を具備し、手当の算出基礎とされている運賃等の額又は自転車等の使用距離に限る。)に、兼務校への通勤所要回数に応じて、兼務校への通勤のため負担することとなる運賃等の額又は自転車等を使用する距離を加えたものを基礎として算出する。

この場合において、兼務教育職員の1か月当たりの通勤所要回数は、年間を通じて勤務を要することとなる回数を12で除して得た数とし、その数に1位未満の端数が生じたときは切り捨てる。

##### 4. 通勤手当の算出の具体的方法

別紙のとおり。

##### 5. 通 勤 届

- (1) 兼務教育職員は、通勤届に下記様式による「兼務教育職員の通勤内訳書」を添え本務校の所属長へ提出する。
- (2) 所属長は、提出された通勤届に基づき、順路、兼務日数、運賃等を確認し所定の手続きをとるとともに、その写しを教職員課長に提出すること。

所 属 及 び 氏 名	
兼務校名及び所在地	
兼 務 期 間	
1 週当たり兼務日数	
<p>通勤の略図</p> <p>※ 居所，本務校，兼務校，通勤方法，運賃，km数等を明記のこと。</p> <p>////////////////////////////////////</p>	
<p>算出内訳（認定権者記入）</p> <p>////////////////////////////////////</p>	

備考 2部作成し、認定権者は1部を教職員課長あて提出すること。

## 6. 実施の時期

昭和50年4月1日より適用する。

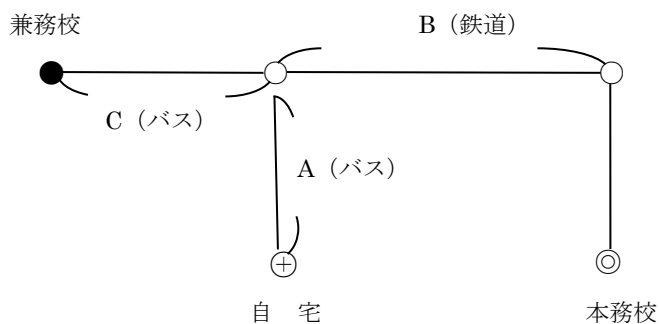
※ 平成11年4月1日より、学務課長を教職員課長と読み替える。

〈別 紙〉

## 通勤手当の算出方法

### 1. 交通機関利用者の場合

(1) 兼務校への通勤経路又は通勤方法が異なる場合は、その経路又は方法に応じた額を加算する。



A, B=通常の例により算出した1箇月当たりの運賃等相当額

C = 兼務校の通勤回数に応じた負担額

} 以下同じ

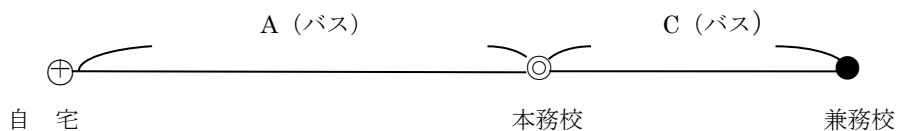
$$\left( \frac{\text{週勤務日数} \times 35 \times 2 \times \text{片道の額}}{\text{回数券の割引率}} \times \frac{1}{12} = C \text{ の額} \right)$$

1 箇月当たりの運賃等相当額=A+B+C による額

ただし、その額が 55,000 円を超える場合は

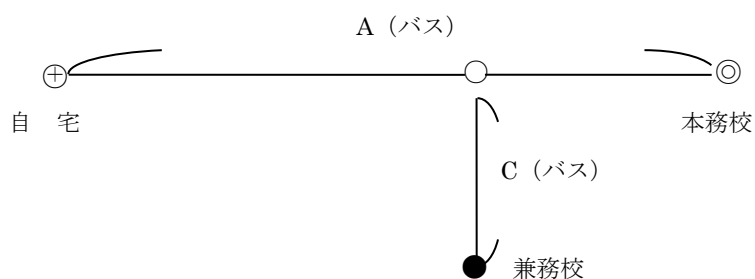
$$1 \text{ 箇月当たりの運賃等相当額} = \frac{(A+B+C) - 55,000 \text{ 円} + 55,000 \text{ 円 (限度額 65,000 円)}}{2} \text{ 以下同じ}$$

(2) 兼務校への通勤経路が本務校への通勤経路の延長となる場合は、その延長部分に応じた額を加算する。



1 箇月当たりの運賃等相当額=A+C による額

(3) 兼務校が通勤経路の途中にある場合には、経費負担の実情により加算する。

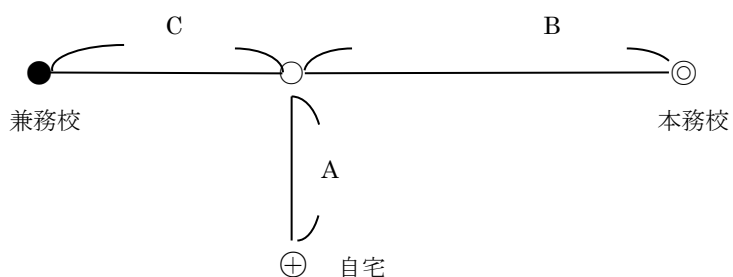


1 箇月当たりの運賃等相当額=A+C による額

## 2. 自転車等利用者の場合

通勤に要するkm数が、通常本務校に通勤する場合よりも増加するときは、次の方法に応じた距離を加算する。

(1)

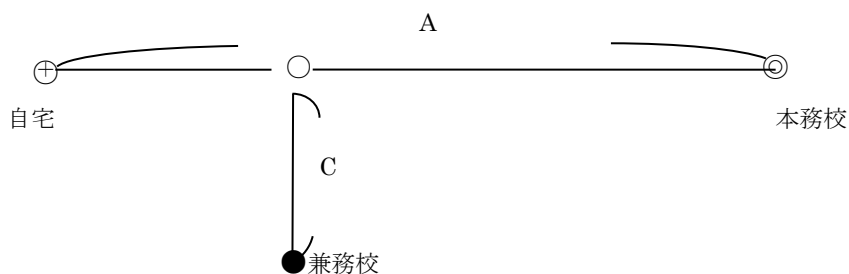


支給対象km数=A+B+C

C=兼務校への通勤回数に応じたkm数

$$\frac{(\text{実km数} \times \text{年間兼務回数})}{52 \times 5} = \text{Cのkm数} \quad \text{以下同じ}$$

(2)



支給対象km数=A+C

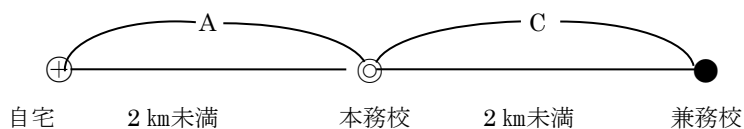
### 3. 算出上の留意事項

#### (1) 本務校勤務と年間兼務日数の考え方

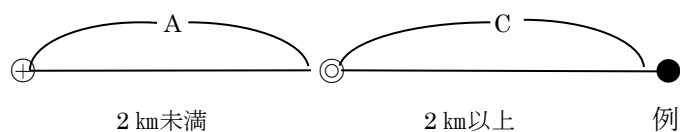
兼務校のみに授業を有する場合であっても、学校行事、学級事務等で本務校へは毎日勤務するものとして算出する。

従って、本務校の勤務は 52 週、兼務校へは 35 週の勤務として算出する。

#### (2) 交通機関利用者の場合



片道 2 km 未満は支給しない。



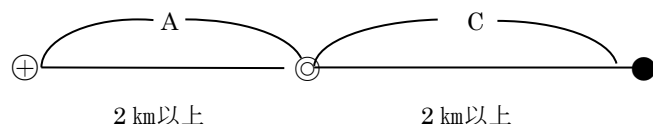
C のみ支給

例 週 1 回 片道 60 円

回 週 往復 割引率 1 ヶ月分手当額

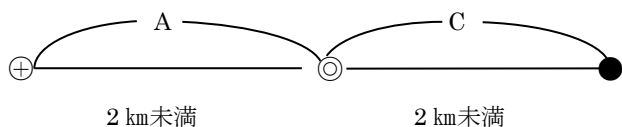
$$1 \times 35 \times 2 \times \underline{60 \text{ 円}} \times \underline{1} = 318 \text{ 円}$$

1.1 12

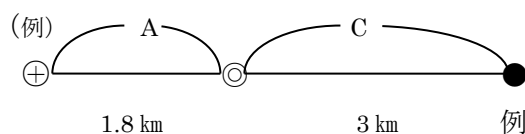


A+C による額

#### (3) 自転車等使用者の場合



片道 2 km 未満は支給しない。



C のみ支給

例 週 1 回

$$\underline{3 \text{ km}} \times \underline{1 \text{ 回}} \times \underline{35 \text{ 週}} = 0.404$$

52 週 × 5

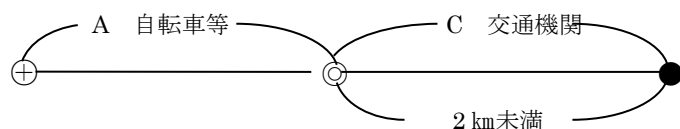
(小数以下 3 位を 4 捨 5 入)

$$\text{※ } 2,000 \times \underline{0.4} = 400 \text{ 円 (円未満切捨)}$$

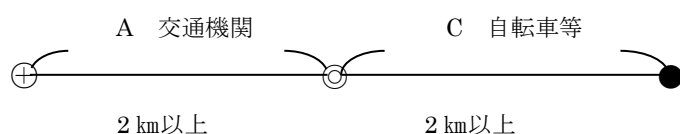
2

(別紙計算事例 6 を参照のこと)

#### (4) 交通機関と自転車等の併用者の場合

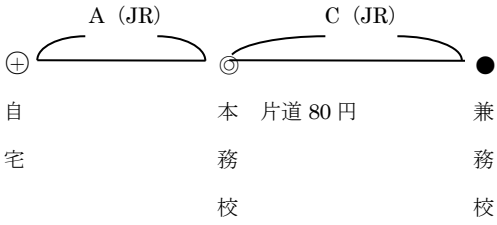
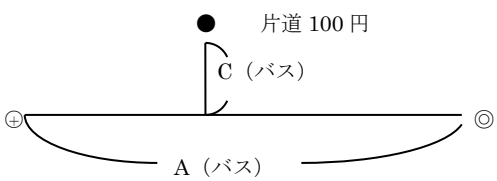
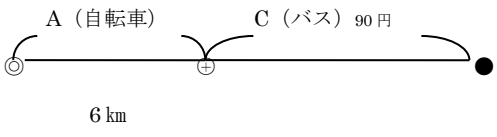
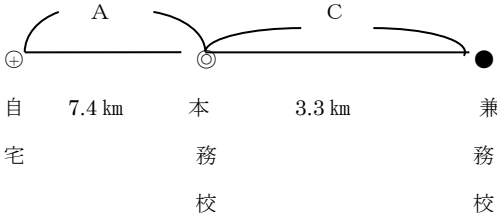
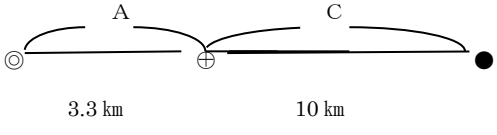
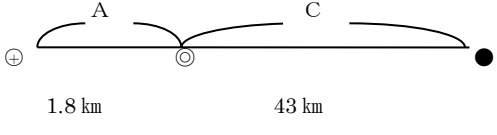


2 km 未満は支給しない。



C の km 数が 2 km 以上で、勤務日数による換算 km 数が 2 km 未満の場合は (3) の例で算出した額を A に加算する。

## 兼務教育職員の通勤手当計算事例

事例	通 勤 方 法	手 当 算 出 方 法	備 考
1	 <p>自 宅                  本 務 校</p> <p>片道 80 円</p>	<p>週</p> $2 \text{ 日} \times 35 \text{ 週} \times 2 \text{ 往復} \times \underline{80 \text{ 円}} \times \underline{1.1}$ $= 848 \text{ 円加給}$	<p>1.1=回数券割引率</p> <p><math>\underline{1.1} = 1 \text{ ヶ月当}</math></p> <p>12 負担額</p>
2	 <p>片道 100 円</p> <p>A (バス)                  C (バス)</p>	<p>週</p> $1 \text{ 日} \times 35 \times 2 \times \underline{100 \text{ 円}} \times \underline{1.1}$ $= 530 \text{ 円加給}$	
3	 <p>A (自転車)                  C (バス) 90 円</p> <p>6 km</p>	<p>週</p> $1 \text{ 日} \times 35 \times 2 \times \underline{90 \text{ 円}} \times \underline{1.1}$ $= 477 \text{ 円加給}$	
4	<p><u>自家用車</u></p>  <p>自 宅                  本 務 校</p> <p>7.4 km                  3.3 km</p>	$\underline{3.3 \text{ km} \times \text{週 } 2 \text{ 日} \times 35 \text{ 週}} = 0.89$ <p>52 週 × 5 日 (換算km数)</p> $7.4 \text{ km} + 0.89 \text{ km} = 8.29 \text{ km}$ $= 6,100 \text{ 円 (支給額)}$	<p>52 = 1 年の週</p> <p>5 = 1 週</p>
5	<p><u>自家用車</u></p>  <p>3.3 km                  10 km</p>	$\underline{10 \text{ km} \times \text{週 } 3 \text{ 日} \times 35 \text{ 週}} = 4.038$ <p>52 × 5 日</p> $3.3 \text{ km} + 4.04 \text{ km} = 7.34 \text{ km}$ $= 5,200 \text{ 円 (支給額)}$	
6	<p><u>自家用車</u></p>  <p>1.8 km                  43 km</p>	<p>Cのみ支給対象</p> $\underline{43 \text{ km} \times \text{週 } 1 \text{ 日} \times 35 \text{ 週}} = \underline{5.79 \text{ km}}$ <p>52 × 5 日</p> $= 4,300 \text{ 円 (支給額)}$ <p>※換算km数が 0.337 の場合</p> <p>4 km未満の額</p> $2,100 \text{ 円} \times \underline{0.34} = 357 \text{ 円}$ <p style="text-align: center;">2</p>	<p>ここのkm数が 2 km</p> <p>未満の場合更に次式により算出した額</p>

